

研究・調査報告書

報告書番号	担当
39	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Prevalence and routine assessment of unhealthy alcohol use in hospitalized patients. 入院患者における病的な飲酒について	
執筆者	
Roson B, Monte R, Gamallo R, Puerta R, Zapatero A, Fernandez-Sola. J, Pastor I, Giron JA, Laso J; ASMI Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Intern Med. 2010 Oct;21(5):458-64.	
キーワード	
飲酒、入院患者、医療者、診療録	
要 旨	
<p>目的： 入院患者において病的な飲酒の頻度と、医療者による飲酒量の把握状況を明らかにする。</p> <p>方法： スペインの 21 の病院で、2008 年 3 月 12 日に内科病棟に入院していた患者を対象に調査を実施した。飲酒量は Alcohol Use Disorders Identification Test(AUDI-C, AUDIT)、Systematic Inventory of Alcohol Consumption による質問票を用いて評価した。飲酒の様式は ICD-10 により評価した。医療者の患者の飲酒についての把握は診療録により確認した。</p> <p>結果： 入院患者 1,039 例において、病的な飲酒の頻度は 12%であった。病的な飲酒は男性（オッズ比 5.20）、若年者(オッズ比 14.17)、中年(オッズ比 2.99)、南部（オッズ比 1.77）でより多く認められた。診療録からは 59%の患者に入院中の飲酒が確認された。大量飲酒者の 28%、アルコール依存症の 41%に飲酒量について記載されていた。診療録への飲酒についての記載漏れは女性（オッズ比 1.73）や中壮年～高齢者（オッズ比 1.44、1.73）、北西部（オッズ比 3.46）でより多く認められた。東部の患者では診療録への飲酒についての記載漏れがより少なかった（オッズ比 0.47）。</p> <p>結論： 入院患者における病的飲酒の頻度は一般住民と比較して高いことが明らかになった。飲酒量に関する診療録記載は不十分であった。入院患者における飲酒の把握と診療録への記載を改善する方法についてさらに啓発する必要がある。</p>	